

森づくりの最前線

山梨森林管理事務所 甲府森林事務所 森林官 鈴木 陽子

私の勤務している甲府森林事務所は、山梨県の中央部に位置する甲府市に1178㌔、隣接する山梨市に71㌔、県の東部に位置する富士吉田市に16㌔、計1265㌔の国有林野と、官行造林（国が県有地などに造林した箇所）726㌔を管理しています。

甲府市に広がる国有林は、要害山や太良峠などをはじめとして優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察に適していることから、全域をレクリエーションの森「甲府自然休養林」として設定しています。

市民からも「裏山」の愛称で親しまれている自然休養林を含めた地域は、森林公園「武田の杜」として遊歩道等の整備が進められ、近年では武田の杜トレイルランニングレースも開催されるなど、多くの方に利用されています。

また、都市近郊という立地条件から、小中学校による森林環境教育や企業等の国民参加の森づくりの場としても広く活用されています。



甲府盆地を望む



木登り体験



和田山もみじ街道の森清掃活動

昨年11月1日、和田山もみじ街道育成会と「和田山もみじ街道の森」ふれあいの森協定を締結し、県道104号沿いの和田山国有林における森林整備・保全活動を共に推進することを確認しました。協定締結後初めての活動として、11月27日に紅葉の最盛期を迎えた当

地区において「合同清掃活動」を実施し、不法投棄のゴミ等を回収するとともに、「もみじ」の育成を阻害するツル類の除去や沿道の落ち葉の清掃を行いました。今後とも利用者の方に気持ちよく散策していただけるよう努めていき

たいと思います。

富士吉田市にある諏訪森（すわのもり）国有林は、寛永年間（1624～1643）に植栽されたアカマツ林を起源として天然更新が繰り返された林であり、樹齢250年以上の高齢アカマツの大径木が数多く残っている貴重な植物群落を形成しています。このことから、大部分を植物群落保護林に設定しているほか、史跡名勝天然記念物にも指定されています。

諏訪森アカマツ林は、雪代（積雪で凍結した表土が急激な気温上昇や豪雨等により融解し発生する土砂災害）から下流部集落の家や畑を守るために植栽された歴史を持ち、富士北麓地域の人々の生活と密接な関係にあります。



富士山と諏訪森(パインズパークから撮影)

また、諏訪森国有林は北口本宮富士浅間神社から続く吉田口登山道沿いに位置しており、登録を目指している富士山世界文化遺産の構成資産「富士山域」の構成要素「吉田口登山道」に包含されていることもあり、適切な管理を行うため、当所では昨年度「諏訪森アカマツ林管理指針書」を作成し、具体的な保全活動に取り組んでいます。

森林官に着任し1年になるうとしています、まだまだわからないことだらけです。森林官として、これまで以上に地元との連携を密にして、国有林を適切に管理・運営し、今後も開かれた国有

林として、地域の要望に応えられるように頑張りたいと思います。